



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	茶業研究センター新研究棟	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

重点項目への取組み度		得点*/満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.5	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつつ 3点以上	がんばろう 3点未満

重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.9
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ④内装は維持管理がしやすく更新間隔が長い材を使用。 ④配管は更新間隔が長い材料を使用。④内装は維持管理がしやすく更新間隔が長い材を使用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水型機器を採用 ⑫内装はリサイクル材を採用するよう配慮した。 ⑬有害物質を含まない材料を選択するよう配慮した。 ⑬R32冷媒である機種を選択するよう配慮した。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮気象データを用いて風環境に配慮した。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
		Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
		LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
		LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.5
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰換気が十分とれるよう配慮した。 ⑰非常用電源設備を設置した。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.4
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 3.1.2 ⑲⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲⑳ 階高のゆとり ⑲⑳ 空間の形状・自由さ	
		Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.7
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②②まちなみ・景観への配慮/②③敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ②③緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■敷地外環境対策 (②④持続可能な森林から産出された木材/②⑤温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ②⑤主風向に対する見付面積比を50%以下とした。 	Q-3 1 2 3 3.2	② 生物環境の保全と創出 ②② まちなみ景観への配慮 ②③ 敷地内温熱環境の向上	
		LR-2 2 2.5	②④ 持続可能な森林から産出された木材
		LR-3 2 2.2	②⑤ 温熱環境悪化の改善

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	茶業研究センター新研究棟	階数	地上3F
建設地	静岡県菊川市倉沢1706-11の一部	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2022年9月28日
敷地面積	3,733 m ²	作成者	竹下昌臣
建築面積	1,560 m ²	確認日	
延床面積	2,792 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (138 kg-CO₂/年・m²)
 ②建築物の取組み: 62% (86 kg-CO₂/年・m²)
 ③上記+②以外の: 62% (86 kg-CO₂/年・m²)
 ④上記+: 62% (86 kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果である。 建築物の環境品質については、ゆとりが有り維持管理のしやすい空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。	0	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
0	内装、設備配管は維持管理がしやすく更新間隔が長い材を使用。 換気について、換気が十分とれるよう配慮した。 非常用電源設備を設置した。	緑地の緑が連続するよう外構植栽計画を行った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明の採用。高効率空調機の導入。	節水型機器を採用 有害物質を含まない材料を選択するよう配慮した。 できる限りR32冷媒である機種を選択するよう配慮した。	気象データを用いて風環境に配慮した。 主風向に対する見付面積比を50%以下とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される